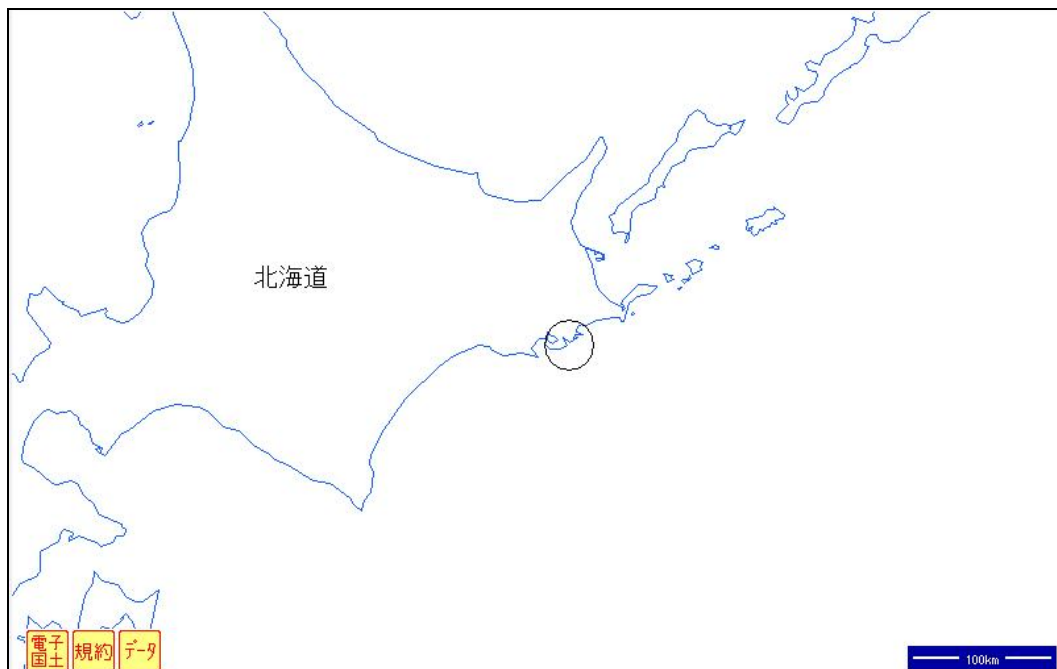


モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【磯】
調査結果

サイト名	厚岸浜中（北海道厚岸郡浜中町）	海域区分	①北部太平洋沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 43.02	東経	145.03
調査年月日	2008年8月15日		
調査者 *サイト代表者	*野田隆史（北海道大）、仲岡雅裕・河内直子・六車秀士・荻野友聡 （北海道大）、山下友美・山北剛久（千葉大）		

環境の概要	藻散布沼の東方約1km、アイヌ岬の南西約1kmに位置する。やや奥まった（内湾的）地形で遠浅であるため、波当たりは弱い。海岸の潮間帯から潮上帯にかけては主に崖と転石浜で、一方、潮下帯は転石混じりの砂質底である。調査地点は堆積岩からなる崖と巨礫上に存在する。
調査結果の概要	毎年、同一地点で調査を実施するため、潮間帯に25cm×25cmの永久方形枠を、30個を設置した。設置に当たってはさまざまな潮位や傾斜の特性をもつように配慮した。主要な底生生物種群の被度等の解析中である。

【広域地図】



※サイトは図中の円内にある。

【調査地風景】

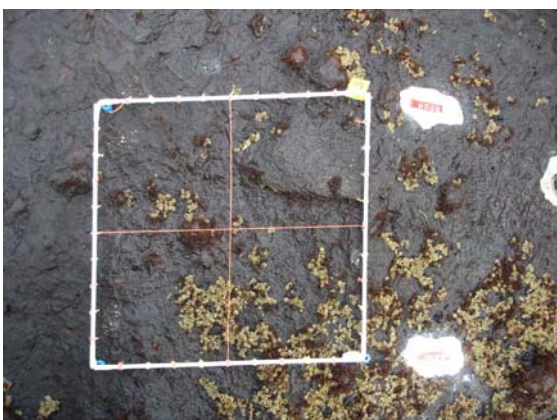


調査地南端から
地点1（南端の調査地点）をのぞむ

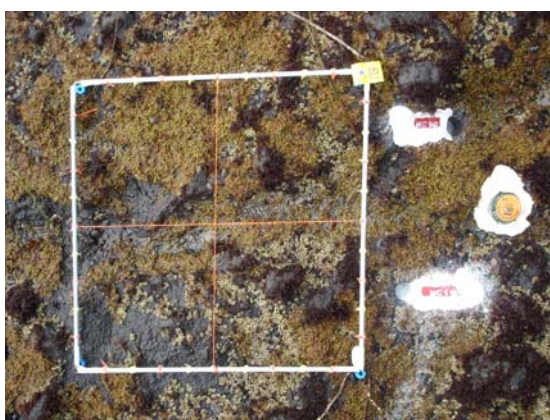


調査地北端から、
調査地全景をのぞむ

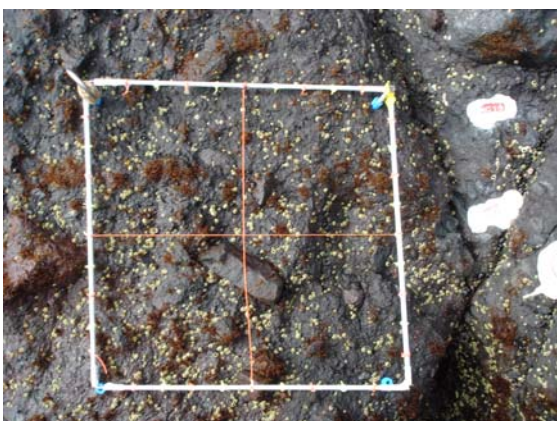
【写真データ】



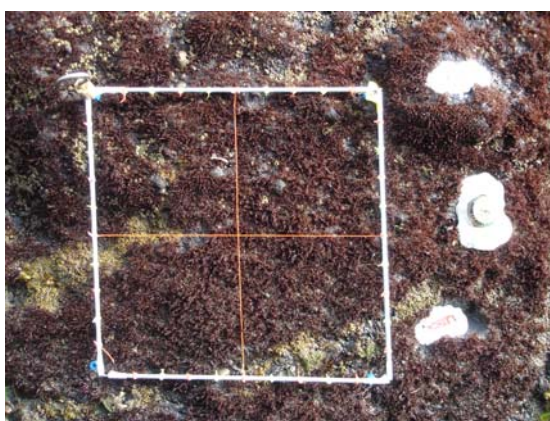
NO. 03



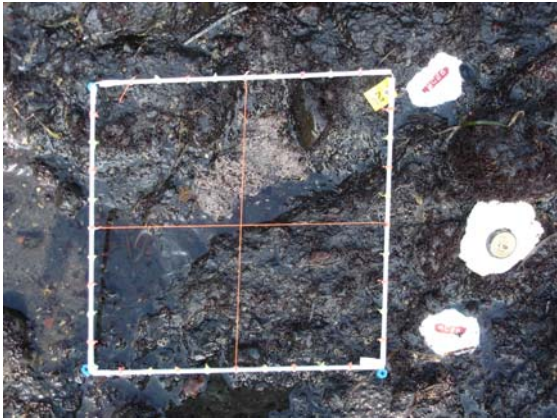
NO. 10



No. 15



No. 19



No. 26

写真撮影：河内直子

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

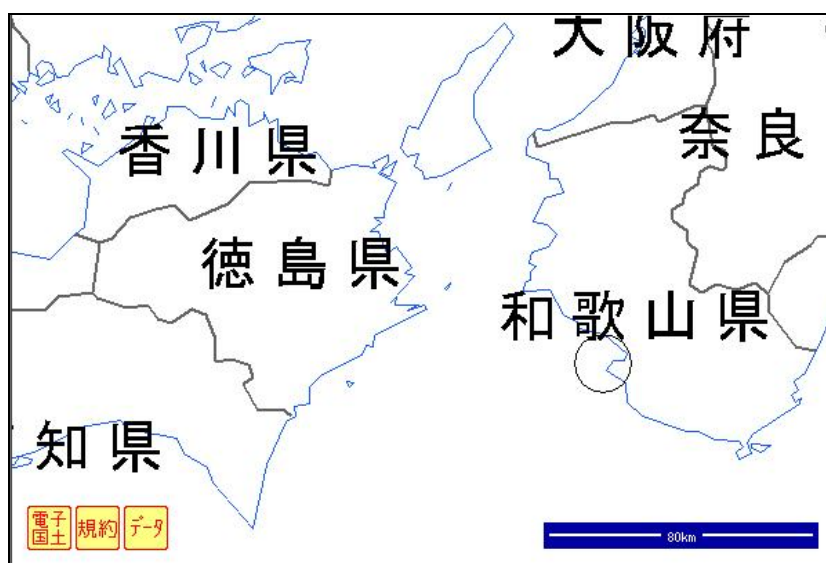
日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【磯】
調査結果

サイト名	南紀白浜（和歌山県田辺市）	海域区分	⑤西部太平洋沿岸等
緯度経度（WGS84）	北緯 33.70	東経	135.34
調査年月日	2008年6月18日		
調査者 *サイト代表者	*石田 惣（大阪市立自然史博物館）、*山本智子（鹿児島大）、 栗原健夫（独）水研セ・西海区石垣支所）、野田隆史（北海道大）、 飯島明子・中川雅博（日本国際湿地保全連合）		

環境の概要	田辺湾の湾口南側の最外縁に位置する。周辺は大小の島状岩礁が点在し、調査サイトは干潮時に台地状の地形が露出する。台地の立ち上がり部分を中心に傾斜が強く、台地の上面は比較的緩やかである。浸食により露出した礫により表面には凹凸が形成される。調査サイトの周囲には潮だまりは点在するが、マニュアルに基づき調査定点には潮だまりは含まれない。大小の島状岩礁に囲まれているが、台風接近時など風雨の激しい時は直接的に強い波浪を受けると見られる。
調査結果の概要	毎年、同一地点で調査を実施するため、潮間帯に25cm×25cmの永久方形枠を、30個を設置した。設置に当たってはさまざまな潮位や傾斜の特性をもつように配慮した。主要な底生生物種群の被度等の解析中である。

【広域地図】



※サイトは図中の円内にある。

【調査地風景】

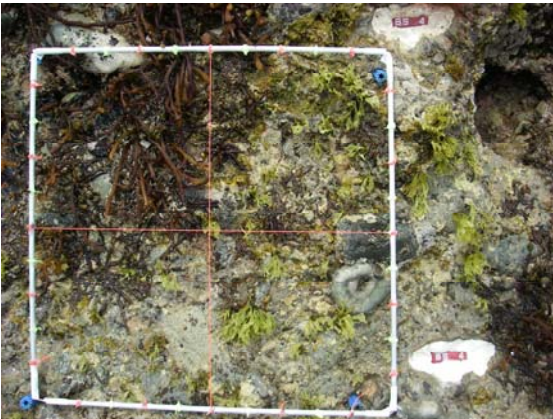


調査地周辺の磯浜を写す

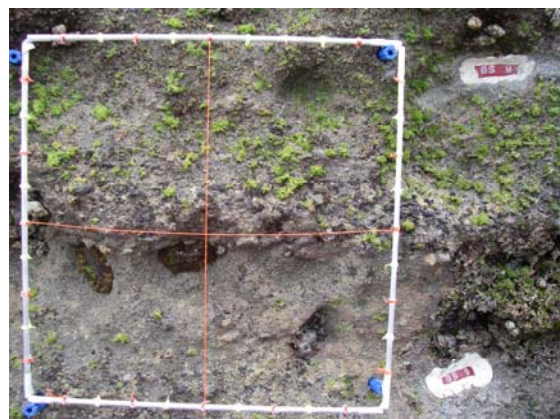


調査地点基点から、
方形枠を設置した岩礁をのぞむ

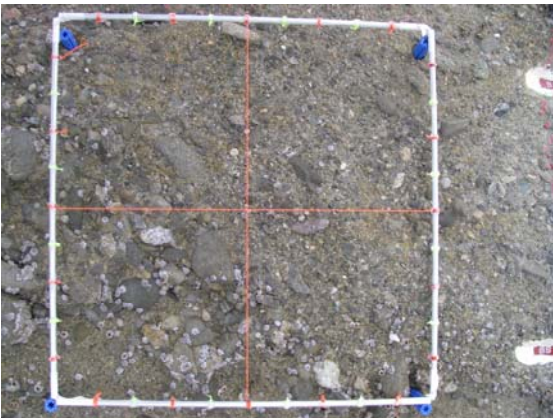
【写真データ】



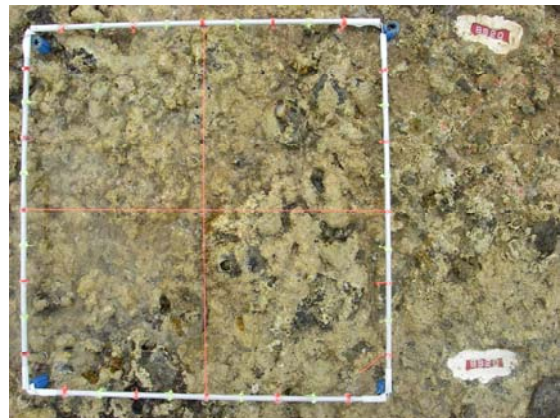
No. 04



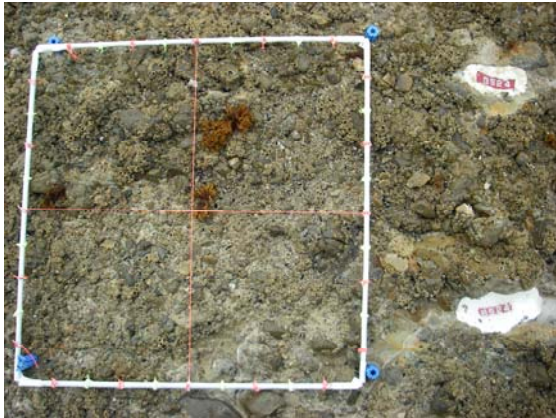
No. 09



No. 11



NO. 20



NO. 24

写真撮影：石田 惣

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

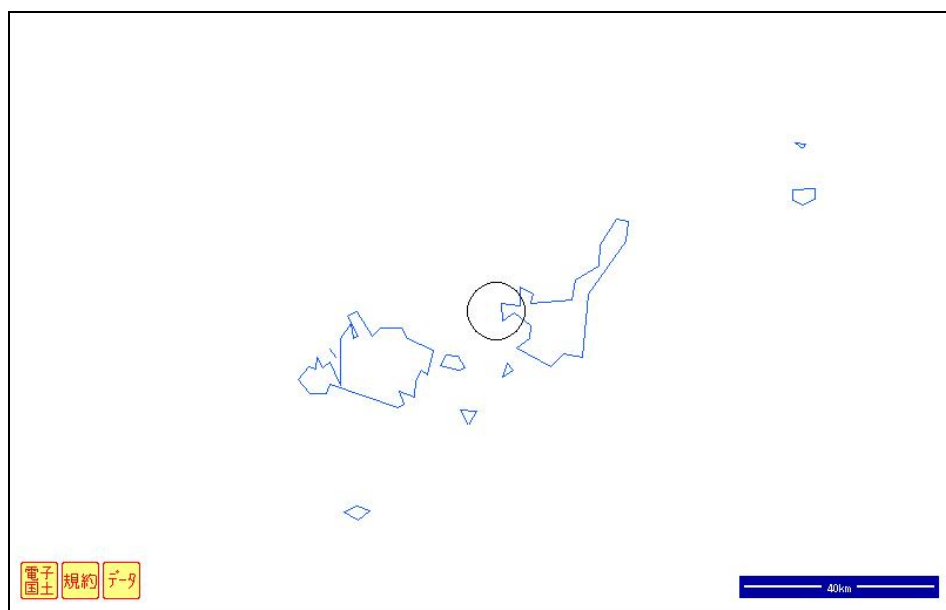
日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【磯】
調査結果

サイト名	石垣屋良部（沖縄県石垣市）	海域区分	⑥琉球列島沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 24.43	東経	124.07
調査年月日	2008年7月7日		
調査者 *サイト代表者	*栗原健夫（（独）水研セ・西海区石垣支所）、*山本智子（鹿児島大）、大島陽太・島津信彦（琉球大）、加藤雅也（（独）水研セ・西海区石垣支所）、小菅丈治（東海大）、西本篤史（京都大）		

環境の概要	石垣島屋良部崎。潮下帯付近をサンゴ礁でおおわれており、岬に位置する開放的な海岸である。潮上帯～潮下帯の距離は約 50m、海岸線に平行な方向の距離は約 70m。傾斜は約 3°。岩肌を溝が縦走している。この溝のところどころに潮だまりがある。沖縄の海岸としては波あたりが強い。
調査結果の概要	毎年、同一地点で調査を実施するため、潮間帯に 25cm×25cm の永久方形枠を、30 個を設置した。設置に当たってはさまざまな潮位や傾斜の特性をもつように配慮した。主要な底生生物種群の被度等の解析中である。

【広域地図】



※サイトは図中の円内にある。

【調査地風景】

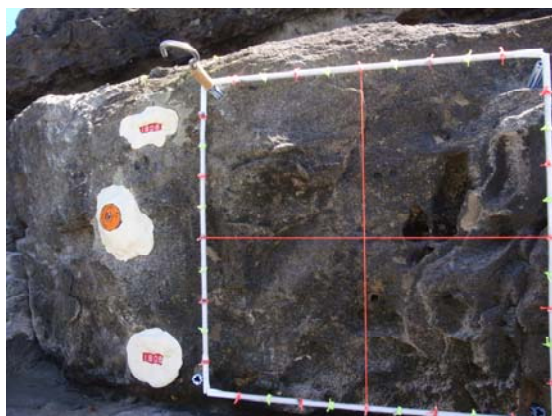


調査地（北側の基点から調査地を見渡す）



調査地（南側の基点から調査地を見渡す）

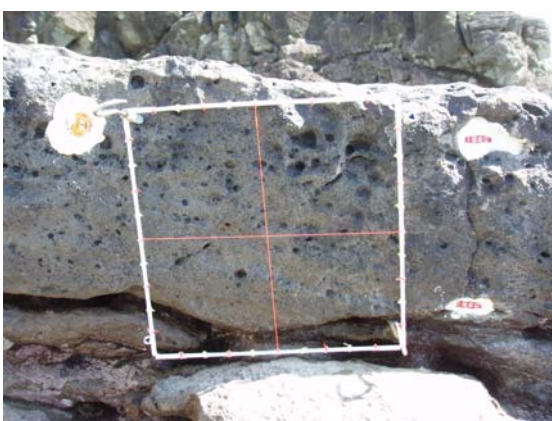
【写真データ】



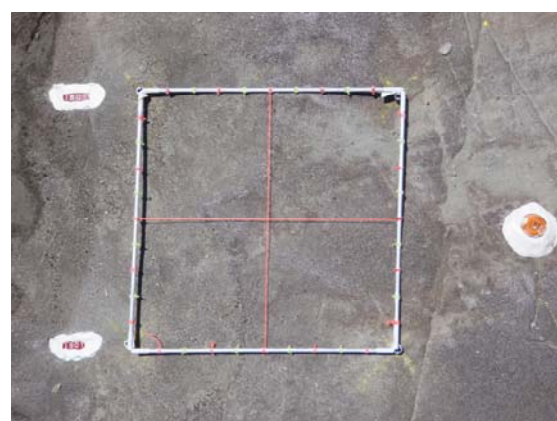
No. 06



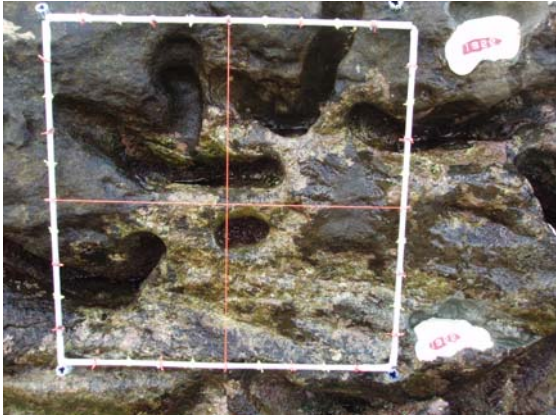
No. 19



No. 20



No. 01



No. 22

写真撮影：栗原健夫

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

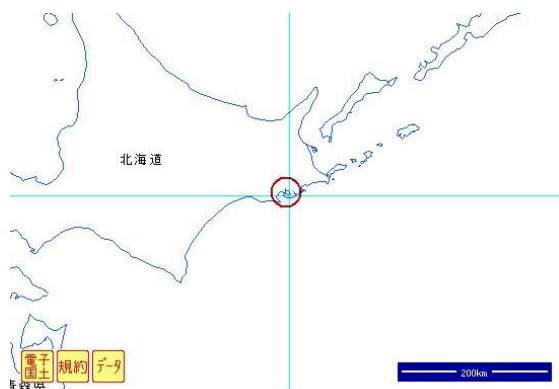
モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	厚岸（北海道厚岸郡厚岸町）	海域区分	①北部太平洋沿岸
調査年月日	2008年7月18日、19日		
調査者 *サイト代表者	*鈴木孝男（東北大）、向井 宏（京都大）、金谷 弦（東北大）、 濱野章一・桂川英徳（北海道大）		

エリア名	Aエリア 厚岸湾		
緯度経度（WGS84）	北緯	43.05	東経 144.84
底質	礫まじり砂泥質		
調査エリアの概要	厚岸湾の北奥部、厚岸湖の出入口に近いところに立地する幅の狭い前浜干潟。潮上帯にはわずかに海岸植生が残るが、すぐ後はコンクリート護岸になっている。一方、潮下帯にはアマモ帯があり、沖合にはオオアマモの群落がある。干潟の東端に小面積ながら転石帯がある。干潟でゴカイを掘っている人たちがいた。		
動物	アラムシロ、アサリ、エゾイシカゲガイ、ウバガイ、オオノガイ、エゾゴカイ、シロガネゴカイ科、ドロオニスピオ、イソタマシキゴカイ、ミズヒキゴカイ、キタヨコエビ科、ドロクダムシ属、エビジャコ属など		
植物	アマモ、コアマモ、アナアオサ ハマオグルマ、ハマアカザ、テンキグサ、ハマエンドウ		
調査結果の概要	干潟は3ha 程と狭いが、イソタマシキゴカイの糞塊が多く見られたほか、アサリの稚貝が多く出現した。また潮間帯下部には多毛類が比較的多く出現した。潮下帯にはアマモやコアマモが生育し、アナジャコの巣穴が認められた。植生帯にはヒメハマトビムシが多かった。また、転石帯にはクロタマキビが多く生息していた外、転石の下にはエゾゴカイやクロガネイソギンチャクが見られた。厚岸湖の干潟では多く見られたホソウミニナが、ここには生息しない。		

エリア名	Bエリア 厚岸湖		
緯度経度 (WGS84)	北緯	43.05	東経 144.94
底質	泥質		
調査エリアの概要	厚岸湖の東側最奥部、トキタイ川の河口部に広がる干潟。潮間帯中部から下部にかけてコアマモが生育する。干潟の陸側は一段高いピート台地となり、塩生植物が生育する塩性湿地が広がる。陸路でアクセスできる道路はなく、潮下帯は浅いアマモ場となっているので、磯舟がないと到達できない。		
動物	ホソウミニナ、アッケシカワザンショウ（未記載種）、サビシラトリガイ、オオノガイ、ソトオリガイ、サシバゴカイ科、カワゴカイ属、イトゴカイ科、イサザアミ属、コツブムシ科、ニホンヒメハマトビムシ、キタヨコエビ科など		
植物	コアマモ、スジアオノリ、オゴノリ ツルヒメキンバイ、テンキグサ、ウミミドリなど		
調査結果の概要	干潟にはホソウミニナが多産し、植生帯にはアッケシカワザンショウが高密度で生息していた。干潟の打上げ物の下にはキタヨコエビ科の1種が見られた。潮間帯下部にはオオノガイやソトオリガイが出現したが、多毛類は貧弱であった。潮間帯下部～潮下帯の泥地にはホウザワイソギンチャクが生息していた外、アナジャコの巣穴も見られた。		

【広域地図】



【詳細地図】左：Aエリア



【調査地風景】



Aエリア 厚岸湾

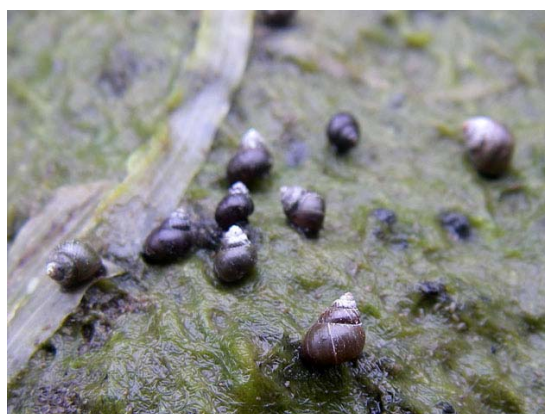


Bエリア 厚岸湖

【出現生物】



イソタマシキゴカイの糞塊



アッケシカワザンショウ



イソタマシキゴカイ



ハウザワイソギンチャク



ホソウミニナ

写真撮影：鈴木孝男

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	中津干潟（大分県中津市）	海域区分	③瀬戸内海沿岸
調査年月日	2008年6月2日、3日（補完調査7月4日）		
調査者 * サイト代表者	* 浜口昌巳（(独)水研セ・瀬戸内海区）、上村了美・佐々木美穂・ 山田勝雅・手塚尚明（(独)水研セ・瀬戸内海区）		

エリア名	Aエリア 中津川河口		
緯度経度 (WGS84)	北緯	33.62	東経 131.20
底質	砂泥質。一部礫が混じる。		
調査エリアの概要	河口干潟で塩性湿地がある。		
動物	ホソウミニナ、ウミニナ、ヘナタリ、フトヘナタリ、カワアイ、アラムシロ、ホトトギスガイ、ユウシオガイ、ハザクラ、ソトオリガイ、キョウスチロリ、チロリハボウキ、ミズヒキゴカイ、タマシキゴカイ、ニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ、ハサミシャコエビ、ユビナガホンヤドカリ、イソガニ、チゴガニ、ヤマトオサガニ、アシハラガニ、ヒメアシハラガニなど		
植物	オゴノリ、アオサ		
調査結果の概要	中津川河口の塩性湿地にはアシハラガニ、ヒメアシハラガニが生息している。腹足類ではヘナタリ、フトヘナタリ、カワアイ等の密度が高く、海側に進むにつれてウミニナ、ホソウミニナが増加する。また、腹足類、多毛類、甲殻類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。		

エリア名	Bエリア 東浜		
緯度経度 (WGS84)	北緯	33.61	東経 131.21
底質	砂質		
調査エリアの概要	広大な砂質干潟。シギ・チドリ類の飛来地として有名。		
動物	スナイソギンチャク、ミドリヒモムシ、キサゴ、アラムシロ、キセワタガイ、チョウジガイ、オオシイノミガイ、ユウシオガイ、シオフキ、マテガイ、アサリ、ハマグリ、チロリ、タマシキゴカイ、コケゴカイ、イシイソゴカイ、ケンサキスピオ、ドロオニスピオ、ツツオオフエリア、ブラブラソコエビ、ニホンクチバシソコエビ、ホソトゲヨコエビ、ヒラタマルソコエビ、ミツオビクーマ、ユビナガホンヤドカリなど		
植物	アオサ、オゴノリ、コアマモ		

調査結果の概要	広大な砂質干潟で一部礫場もある。埋在性のベントス類が多く、アサリ、シオフキなどの二枚貝の他、多毛類の種類数及び密度が高い。
---------	---------------------------------------------------------------

エリア名	Cエリア 大新田	
緯度経度 (WGS84)	北緯 : 33.60	東経 : 131.23
底質	砂泥質	
調査エリアの概要	干潟の手前に塩性湿地が、沖合にはコアマモ場が点在する。シギ・チドリ類の飛来地として有名。	
動物	スナイツギンチャク、ダイダイイソカイメン、ホソウミニナ、ウミニナ、ヘナタリ、フトヘナタリ、カワアイ、イボウミニナ、シマモツボ、アラムシロ、チョウジガイ、オオシイノミガイ、ユウシオガイ、マテガイ、オキシジミ、オキナガイ、スゴカイイソメ、オニイソメ、ケンサキスピオ、ムギワラムシ、ミズヒキゴカイ、ツツオオフエリア、モズミヨコエビ、ニホンクチバシソコエビ、アゴナガヨコエビ、ニホンドロクダムシ、ミツオビクーマ、エビジャコ、ニホンスナモグリ、アナジャコ、ヤドリカニダマシ、オサガニ、ヤマトオサガニなど	
植物	アマモ、オゴノリ、コアマモ、ボウアオノリ	
調査結果の概要	塩性湿地から砂泥質の干潟まで多様な環境を含む干潟。そのため、腹足類、多毛類、甲殻類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。	

【広域地図】



【詳細地図】左から順に、A・B・Cエリア



【調査地風景】



Aエリア 中津川河口



Aエリア 中津川河口



Bエリア 東浜



Cエリア 大新田

【出現生物】



ヘナタリ（左）とカワアイ（右）



サキグロタマツメタガイ



ツメタガイ類の卵塊



コアマモ

写真撮影：佐々木美穂

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

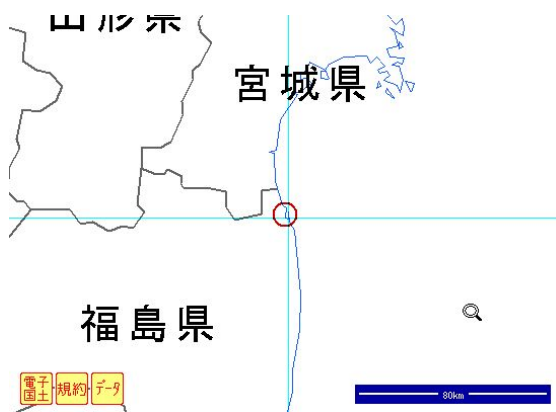
モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	松川浦（福島県相馬市）	海域区分	④中部太平洋沿岸
調査年月日	2008年5月9日		
調査者 *サイト代表者	*鈴木孝男（東北大）、上村了美（(独)水研セ・瀬戸内海区）、 逸見泰久（熊本大）、安野 翔（東北大）、久保井喬（環境省）、 飯島明子・中川雅博（日本国際湿地保全連合）		

エリア名	Aエリア 鵜の尾		
緯度経度（WGS84）	北緯	37.82	東経 140.98
底質	砂質		
調査エリアの概要	潟湖干潟の通水路に近い位置にあり入江状になった干潟。入江の最奥部は泥が混じる。潮上帯には小面積の塩性湿地があり、潮下帯の水路沿いにはアマモ場が広がる。干潟には海苔棚がある。		
動物	ホソウミニナ、マツカワウラカワザンショウ、マガキ、イソシジミ、ユウシオガイ、アサリ、ソトオリガイ、ヤミヨキセワタ、カワゴカイ属、イトゴカイ科・スピオ科の多毛類、ニホンスナモグリ、ユビナガホンヤドカリ、コメツキガニ、ヤマトオサガニ、オロチヒモムシなど		
植物	アマモ、オゴノリ、フクロノリ、アナアオサ（打上げ） ヨシ、シオクグ、ハママツナなど		
調査結果の概要	腹足類、多毛類、甲殻類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。干潟一帯でホソウミニナが優占したが、マツカワウラカワザンショウ（未記載種）やコメツキガニも多かった。また、ウミニナ、ユウシオガイ、ソトオリガイ、ツバサゴカイ（棲管）などの希少な種類も出現した。一方、輸入アサリとともに侵入したとみられる外来種サキグロタマツメタの生息も確認された。ヨシ原にはアシハラガニ、カワザンショウガイ類が見られた。		

エリア名	Bエリア 磯辺		
緯度経度 (WGS84)	北緯	37.78	東経 140.98
底質	砂質～砂泥質		
調査エリアの概要	松川浦の最奥部に位置する干潟で、潮間帯下部は砂泥質となり、一部泥質のところもある。潮間帯上部にはパッチ状の狭いヨシ原が存在する。小河川の流入があり、ところどころに小規模のイガイ礁が見られる。シギ・チドリ類が比較的高頻度で採餌に訪れる干潟である。		
動物	ホソウミニナ、カワアイ、マツカワウラカワザンショウ、ムラサキイガイ、イソシジミ、オキシジミ、ヤミヨキセワタ、サシバゴカイ科、カワゴカイ属、ヤマトスピオ、ミズヒキゴカイ、イトゴカイ科、ニホンドロソコエビ、スナウミナナフシ属、ユビナガホンヤドカリ、ケフサイソガニ、コメツキガニ、ヤマトオサガニなど		
植物	ヨシ、シオクグなど		
調査結果の概要	ホソウミニナとマツカワウラカワザンショウが優占する他、イソシジミとオキシジミが多かった。以前には認められなかったカワアイとフトヘナタリが少数ではあるが出現した。また、カワゴカイ属をはじめとして多毛類の多様性が高く、ミズヒキゴカイなど汚染に強い種類も認められた。端脚目ではニホンドロソコエビが多く出現した。潮間帯下部の砂泥質～泥質のところにはムラサキイガイからなるイガイ礁が点在していた。		

【広域地図】



【詳細地図】上：Aエリア



【調査地風景】



Aエリア 鵜の尾



Bエリア 磯辺

【出現生物】



ホソウミニナ



マツカワウラカワザンショウ



カワアイ



ヤミヨキセワタ



フトヘナタリ

写真撮影：鈴木孝男



日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	盤洲干潟（千葉県木更津市）	海域区分	④中部太平洋沿岸
調査年月日	2008年6月19日、20日		
調査者 *サイト代表者	*風呂田利夫（東邦大）、多留聖典・鈴木竜太郎・菅原万里恵（東邦大）		

エリア名	Aエリア 前浜干潟		
緯度経度（WGS84）	北緯	35.53	東経 139.97
底質	砂質		
調査エリアの概要	小櫃川の前置層で形成された広大な前浜干潟。		
動物	イボキサゴ、ホソウミニナ、アラムシロ、シオフキ、ウメノハナガイモドキ、アサリ、ソトオリガイ、ツツオオフエリア、チロリ属、コケゴカイ、コメツキガニ、ヨコエビ類、ユビナガホンヤドカリ、テナガツノヤドカリ、エビジャコ属、コメツキガニ、オサガニなど		
植物	オオバアオサ、アマモ		
調査結果の概要	軟体動物が多産し、特にホソウミニナ、イボキサゴ、アサリ、シオフキが主体だった。軟体動物以外ではツツオオフエリア、チロリ属、コケゴカイなどの環形動物やテナガツノヤドカリ、ユビナガホンヤドカリ、エビジャコ属などの節足動物が出現した。		

エリア名	Bエリア 後背湿地	
緯度経度 (WGS84)	北緯 35.52	東経 140.04
底質	砂泥質～泥質	
調査エリアの概要	後背湿地のクリーク沿いで泥質。標高の高い場所は砂泥質でヨシ原が発達。	
動物	ホソウミニナ、クリイロカワザンショウ、ヤマトシジミ、サビシラトリ、カワゴカイ属、ホソイトゴカイ属、ハサミシャコエビ、アシハラガニ、クロベンケイガニ、クシテガニ、ヤマトオサガニ、チゴガニなど	
植物	オオバアオサ。植生内にはヨシ、アイアシ、シオクグ、ハママツナなど	
調査結果の概要	カニ類が多く、全域でアシハラガニ、潮間上部ではクロベンケイガニ、クシテガニ、クリーク周辺ではヤマトオサガニ、チゴガニが出現した。カニ類の他には、クリイロカワザンショウ(腹足綱)、ヤマトシジミ(二枚貝綱)、カワゴカイ属(環形動物)、ハサミシャコエビ(節足動物)などが出現した。	

【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



Aエリア 前浜干潟



Bエリア 後背湿地

【出現生物】



ホソウミニナ



クリイロカワザンショウ



テナガツノヤドカリ



アサリ



アシハラガニ

写真撮影：多留聖典

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	汐川干潟（愛知県田原市、豊橋市）	海域区分	④中部太平洋沿岸
調査年月日	2008年6月3日、4日		
調査者 *サイト代表者	*木村妙子（三重大）、木村昭一（愛知県環境審議会）、藤岡エリ子・藤岡純治（汐川干潟を守る会）、北村 優・武馬弘幸（三重大）		

エリア名	Aエリア 蜷川河口		
緯度経度(WGS84)	北緯	34.68	東経 137.29
エリア名	Bエリア 杉山		
緯度経度(WGS84)	北緯	34.69	東経 137.31
エリア名	Cエリア 紙田川河口		
緯度経度(WGS84)	北緯	34.70	東経 137.32
底質	砂泥質		
調査エリアの概要	広範囲のアオサ類の堆積が見られ、アオサ類の堆積物下の底質は還元 的である。		
動物	ソトオリガイ、オキシジミ、ユウシオガイ、ホソウミニナ、ウミニナ、 アラムシロガイ、タテジマイソギンチャク、タマキビ、フトヘナタリ、 エドガワミズゴマツボ、ヘナタリ、カワザンショウガイ、ヤミヨキセ ワタ、ツボミガイ、コウロエンカワヒバリガイ、マガキ、ヒメシラト リ、クロベンケイガニ、オサガニ、ヤマトオサガニ、タカノケフサイ ソガニ、マメコブシガニなど		
植物	ヨシ、アオサ類		
調査結果の概要	アオサの打ち上げが多く、特に潮間帯上部に多かった。表層にウミニ ナ類やアラムシロガイが多い。底土内にはオキシジミ、ソトオリガイ、 ユウシオガイなどの二枚貝が優占する。カニ類は干潟にマメコブシガ ニ、ヤマトオサガニやタカノケフサイソガニが生息し、ヨシ原にはク ロベンケイガニが多い。カキ礁はコウロエンカワヒバリガイ、ムラサ キイガイ、タテジマイソギンチャクなどの付着動物の生息地となっ ていた。		

エリアごとの調査結果の解析は、報告書に掲載する予定です。

【広域地図】



【詳細地図】左から順に、A・B・Cエリア



【調査地風景】



Bエリア 杉山



Cエリア 紙田川河口

【出現生物】



ヤミヨキセワタ



ウミニナ



マメコブシ



オサガニ



コウロエンカワヒバリガイ

写真撮影：木村妙子

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	南紀田辺（和歌山県田辺市）	海域区分	⑤西部太平洋沿岸等
調査年月日	2008年6月21日、22日		
調査者 *サイト代表者	*古賀庸憲（和歌山大）、沖彩矢香・中村謙太（和歌山大）、 大畠麻里（奈良女子大）、香田 唯（分析業）		

エリア名	Aエリア 内之浦		
緯度経度（WGS84）	北緯	33.41	東経 135.23
底質	（上部）砂泥質～泥質 （下部）泥質		
調査エリアの概要	<p>（上部）潟湖の上部で、岸寄りの場所はやや固く長靴でも歩けるが、滞筋に近い場所はぬかるみ歩けない。かつての工事の影響か、底質が赤っぽい。</p> <p>（下部）水路でのみ外海とつながる潟湖の下部で、アオサが表層の大部分を覆っており、軟泥で少し掘ると還元層が見られるところが多い。</p>		
動物	<p>（上部）ホソウミニナ、コゲツノブエ、フトヘナタリ、ヨコイトカケギリ、ミヤコドリ、スガイ、イシマキガイ、ヒメコザラ、ホトトギス、アサリ、オキシジミ、コウロエンカワヒバリガイ、マガキ、チゴガニ、フタバカクガニ、ヒメアシハラガニ、ヤマトオサガニ、ヒメヤマトオサガニ、シオマネキ、ハクセンシオマネキ、ケフサイソガニ、ユビアカベンケイガニ、アシハラガニ、ウモレベンケイガニ、ハサミシャコエビ、ユビナガホンヤドカリ、セジロムラサキエビ、イワホリコツブムシ、ニホンドロソコエビ、シロスジフジツボ、タテジマフジツボ、コケゴカイ、ゴカイ科、ミズヒキゴカイ、ニカイチロリ科、アベハゼなど</p> <p>（下部）コゲツノブエ、シオヤガイ、アラムシロ、ユウシオガイ、スガイ、オキシジミ、ナミマガシワ、ホトトギス、クログチ、シズクガイ、コヤスツララガイ、ウメノハナ、アサリ、ヒメシラトリ、マガキ、ヒモムシ類、ヤマトオサガニ、ヒメヤマトオサガニ、チゴイワガニ、ユビナガホンヤドカリ、マングローブテッポウエビ、コツブムシ科、コケゴカイ、オトヒメゴカイ科、ミズヒキゴカイなど</p>		
植物	（上部）アシほか草本類 （下部）アオサ類		
調査結果の概要	（上部）甲殻類が特に多様で、数も多く見られたが、稀少種のシオマ		

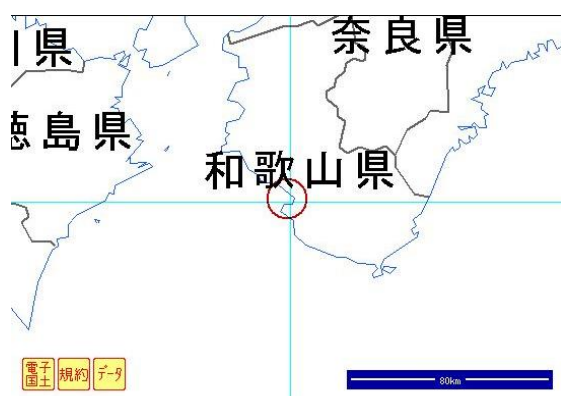
	<p>ネキとハクセンシオマネキはごく少数だった。2004 年調査時には下部で僅かに見られたフトヘナタリが、今回はここ上部で割と普通に見られた。</p> <p>(下部) 腹足類、二枚貝類、甲殻類、多毛類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。また、コゲツノブエ、シオヤガイといった希少な種類も多数確認された。特にコゲツノブエは内之浦では近年個体数が急増していると思われる(2004 年の調査時にはゼロで、当時は池田湾で局所的に見られただけだった)。局所的にカキ礁が形成されている。2004 年に採集されたタビラクチは今回採集されなかった。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

エリア名	Bエリア 鳥の巣	
緯度経度 (WGS84)	北緯 : 33.42	東経 : 135.22
底質	(上部) 砂質～砂泥質 (下部) 砂泥質	
調査エリアの概要	<p>(上部) 入り江の先端近くに位置する干潟の上部で、砂質干潟の典型種が多く、大きな岩には磯に生息する種も多い。</p> <p>(下部) 潮下帯にコアマモが群生し、一部は潮間帯下部まで広がる。</p>	
動物	<p>(上部) シオヤガイ、マガキ、ケガキ、クログチ、アサリ、セミアサリ、ウメノハナ、コウロエンカワヒバリガイ、ホソウミニナ、スガイ、イシダタミ、ヒメコザラ、タマキビ、アラレタマキビ、ヨコイトカケギリ、イソアワモチ、ヒザラガイ、ケハダヒザラガイ属、コメツキガニ、チゴガニ、ヒメアシハラガニ、ヒメヤマトオサガニ、ヒライソガニ、ケフサイソガニ、タカノケフサイソガニ、フタバカクガニ、マキトラノオガニ、ハサミシャコエビ、ユビナガホンヤドカリ、ニホンスナモグリ、ヨコヤアナジャコ、エビヤドリムシ科、シロスジフジツボ、タテジマフジツボ、コケゴカイ、ミズヒキゴカイ、イトエラスピオ、タテジマイソギンチャクなど</p> <p>(下部) シオヤガイ、マテガイ、ユウシオガイ、ナミマガシワ、マガキ、アコヤガイ、カガミガイ、アラムシロ、スガイ、カゴメガイ、ウメノハナ、ウスヒザラガイ、ヒモムシ類、オサガニ、ヒメヤマトオサガニ、ニホンスナモグリ、テナガツノヤドカリ、コブヨコバサミ、ユビナガホンヤドカリ、アカシマホンヤドカリ、テッポウエビ、ツバサゴカイ、コケゴカイ、カタマガリギボシイソメ、ケンサキスピオ、タテジマイソギンチャクなど</p>	
植物	(上部) なし (下部) コアマモ	
調査結果の概要	(上部) 二枚貝類、巻貝類、甲殻類、多毛類などが多数種見られ、多様性の高い干潟である。希少なカニ類の 1 種が、局所的に小さな個体	

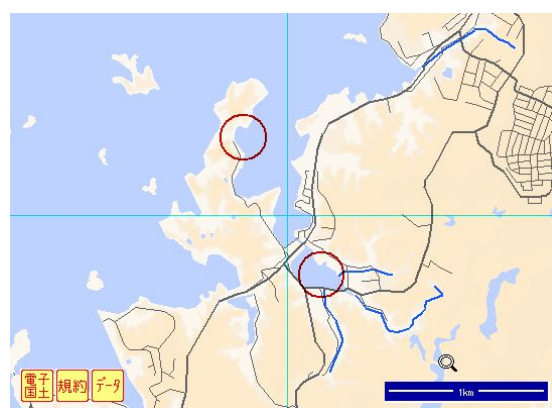
群を形成していた。散在するマガキには主に磯に生息する種が付着していたが、調査地内にある大きな岩には特に磯生物の種数も個体数も多かった。

(下部) 腹足類、二枚貝類、甲殻類、多毛類の出現数が多く、多様性豊かな干潟である。希少種シオヤガイが極めて多数確認された。ツバサゴカイも割と多かった。マテガイ、ユウシオガイ、オサガニなども見られた。浅瀬にはタイワンガザミが多数いた。

【広域地図】



【詳細地図】 下：Aエリア



【調査地風景】



Aエリア 内之浦 上部



Aエリア 内之浦 下部



Bエリア 鳥の巣 上部



Bエリア 鳥の巣 下部

【出現生物】



コゲツノブエとチゴイワガニ



シオヤガイ (とコゲツノブエ)



マングローブテッポウエビ



ウモレベンケイガニ



ミヤコドリ



オサガニ



マテガイ



ユウシオガイ



ツバサゴカイ（棲管）

写真撮影：古賀庸憲

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

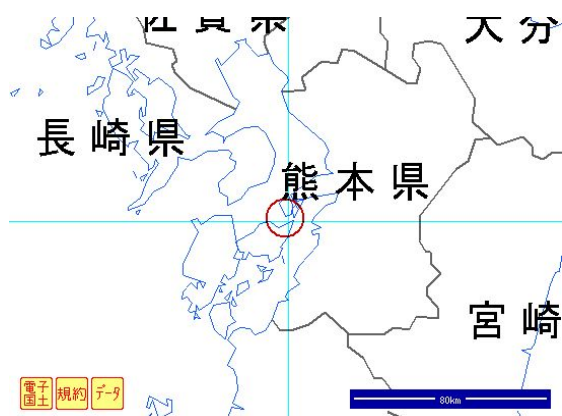
モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	永浦干潟（熊本県上天草市）	海域区分	⑤西部太平洋沿岸等
調査年月日	2008年7月1日、2日		
調査者 *サイト代表者	*逸見泰久(熊本大)、渡部哲也・野島 崇・森川太郎・廻田 健(熊本大)		

エリア名	Aエリア 永浦干潟		
緯度経度 (WGS84)	北緯 : 32.32	東経 : 130.24	
底質	砂泥質		
調査エリアの概要	有明海と八代海を結ぶ瀬戸にあたる。堤防があり、東側にはクルマエビの養殖場となっている。		
動物	ハクセンシオマネキ、ウミニナ、ホソウミニナ、オサガニ、メナシピンノ、スジホシムシモドキ、テッポウエビ、ユビナガホンヤドカリ、アラムシロガイ、ムシロガイ、ムツハアリアケガニ、クモハゼ、クチバガイ、ホトトギスガイ、シロスジフジツボ、アサリ、ヒライソガニ、コメツキガニなど		
植物	ヨシ、ホソバナハマアカザ、ナガミノオニシバなど		
調査結果の概要	潮間帯上部が砂質、潮間帯下部が泥質で、一部に転石が見られるなど環境が多様であり、それに対応して多様な生物が確認された。砂質地にはハクセンシオマネキが優占し、ウミニナが多く確認された。砂泥地にはユビナガホンヤドカリが多く、アラムシロガイ、ムシロガイも確認された。泥質地ではオサガニ、スジホシムシモドキ、ムツハアリアケガニなどが確認された。また、塩性湿地ではカワザンショウの一種（未同定）、フタバカクガニなどが確認された。		

エリア名	Bエリア ビジターセンター	
緯度経度 (WGS84)	北緯 32.32	東経 130.25
底質	砂質～やや泥質	
調査エリアの概要	有明海と八代海を結ぶ瀬戸にあたり、干潟の上方には環境省の天草ビジターセンターがある。自然海岸で転石のある干潟。	
動物	トゲモミジガイ、オサガニ、アラムシロガイ、ハクセンシオマネキ、ユビナガホンヤドカリ、コメツキガニ、イトヒキハゼ、クモハゼ、マガキ、ムラサキハナギンチャク、ツメタガイ、ガザミ、ムシロガイ、タイラギ、アシビキツバサゴカイ、マメコブシガニ、マテガイ、カクベンケイガニなど	
植物	ヨシ、ナガミノオニシバ、ハママツナ	
調査結果の概要	潮間帯上部が砂質、潮間帯下部が砂泥またはやや泥質で、一部は転石や岩礁であった。砂質地にはハクセンシオマネキ、コメツキガニ、ホソウミニナが多く、アラムシロガイ、オサガニも確認された。砂泥地にはユビナガホンヤドカリが多く、アラムシロガイ、マテガイも確認された。泥質地ではアラムシロガイが確認された。また、塩性湿地ではハマガニ、ウモレベンケイガニなどが確認された。	

【広域地図】



【詳細地図】左：Aエリア



【調査地風景】



Aエリア 永浦干潟



Bエリア ビジターセンター

【出現生物】



ウミニナ



ハクセンシオマネキ



オサガニ



ウモレベンケイガニ



ツバサゴカイ（棲管）

写真撮影：逸見泰久

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

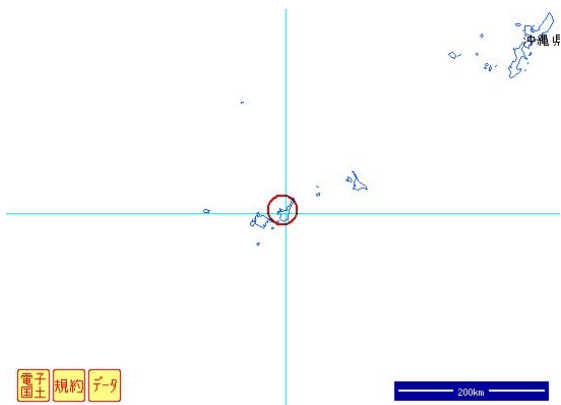
モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【干潟】
調査結果

サイト名	石垣川平湾（沖縄県石垣市）	海域区分	⑥琉球列島沿岸
調査年月日	2008年8月29日、30日		
調査者 * サイト代表者	* 木村妙子（三重大）、木村昭一（愛知県環境審議会）、 栗原健夫（(独)水研セ・西海区石垣支所）、久保弘文（沖縄水試）、 岸本和雄・狩俣洋文（沖縄水試石垣支所）、大島寛俊（三重大）		

エリア名	Aエリア 湾口部			
緯度経度 (WGS84)	北緯	24.46	東経	124.47
エリア名	Bエリア 湾奥部			
緯度経度 (WGS84)	北緯	24.44	東経	124.14
底質	砂泥質			
調査エリアの概要	干潟の背後にマングローブ林を持つ。			
動物	ミナミコメツキガニ、コメツキガニ、オキナワハクセンシオマネキ、メナガオサガニ、ソデカラッパ、ムツアシガニ、タママキガイ、ウメノハナガイ、ハスメザクラ、ナタマメケボリ、ヤエヤマスダレ、ホウシュノタマガイ、タケノコカニモリ、アツムシロ、カスリモミジヒトデヤドリニナ、ヤエヤマスダレ、クシケマスホ、カスリモミジヒトデ、ユムシ類、タテホシムシ			
植物	ウミヒルモ、マツバウミジグサ、リュウキュウスガモ			
調査結果の概要	底土表面にはカスリモミジヒトデが生息し、時々その体表面にカスリモミジヒトデヤドリニナが寄生している。底土表面には這い跡があり、それをたどるとホウシュノタマガイなどのタマガイ類やタケノコカニモリが確認できる。底土内にはユムシ類が生息し、その体表や巣穴にはナタマメケボリやムツアシガニが生息していた。また、底土内にはチロリ類やタママキガイやアラスジケマン、ウメノハナガイが生息する。マングローブ林内にオキナワハクセンシオマネキが生息する。			

エリアごとの調査結果の解析は、報告書に掲載する予定です。

【広域地図】



【詳細地図】上：Aエリア



【調査地風景】



Aエリア 湾口部



Bエリア 湾奥部

【出現生物】



ウメノハナガイ



カスリモミジヒトデ



クシケマスオ



ミナミコメツキガニ



ユムシ類、ナタマメケボリ

写真撮影：木村妙子

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

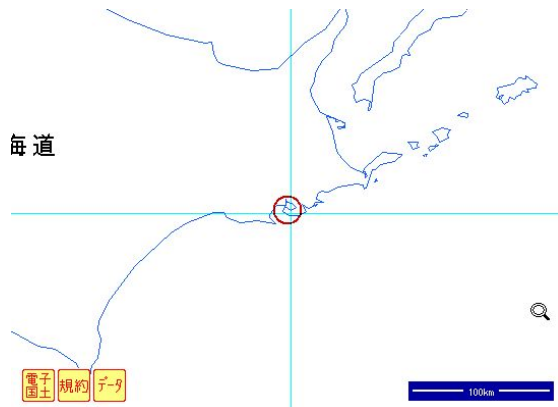
 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【アマモ場】
調査結果

サイト名	厚岸（北海道厚岸郡厚岸町）	海域区分	①北部太平洋沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 43.00	東経	144.89
調査年月日	2008年8月19日		
調査者 *サイト代表者	*仲岡雅裕（北海道大）、向井 宏（京都大）、河内直子（北海道大）、 島袋寛盛（千葉大）		
環境の概要	アマモ場は厚岸湖のほぼ全域と厚岸湾の数点に存在する。モニタリングサイトであるアイニンカップのアマモ場の面積は 2～3ha 程度である。アマモ類は潮間帯から水深 4 m にかけて分布する。潮間帯から潮下帯最上部（水深 1m 程度）にかけては岩盤と堆積物底が混在する。水深 1m 以深は砂底で、なだらかに深くなる。		
調査結果の概要	アマモ、オオアマモ、スガモが出現し、オオアマモが最も優占した。潮間帯では、アマモとオオアマモ、スガモが共存する一方、潮間帯下部から水深 3m にかけてはオオアマモのみが連続的に分布する。それ以下ではオオアマモがパッチ状に分布する。		

【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



水深 1m付近

【調査風景】



水深 1m付近

【出現生物】



アマモ



オオアマモ



マヒトデ

写真撮影：島袋寛盛・河内直子

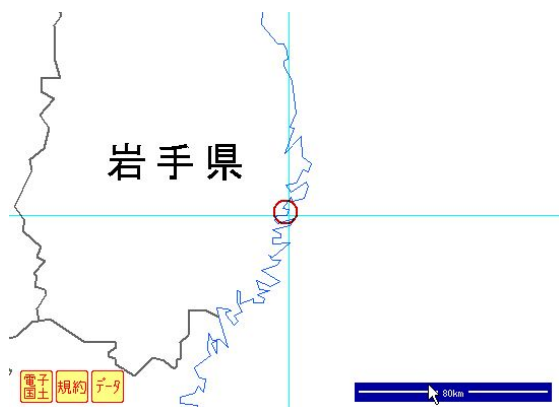


日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【アマモ場】
調査結果

サイト名	大槌（岩手県上閉伊郡大槌町）	海域区分	①北部太平洋沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 39.37	東経 141.95	
調査年月日	2008年7月23日		
調査者 * サイト代表者	* 仲岡雅裕（北海道大）、堀 正和（(独)水研セ・瀬戸内海区）、 渡辺健太郎・山北剛久・ナパクワン-ワンペッチ（千葉大）		
環境の概要	後背の陸域は砂浜、漁港および岩礁である。アマモ場は水深 2m から 17m 付近にかけて形成されるが、護岸堤が存在する付近では分布が途切れる。海底は岸側（西）から沖側（東）に向かって比較的なだらかに深くなる。底質は砂および泥砂である。		
調査結果の概要	船越湾には、アマモ、タチアマモ、オオアマモが出現した。水深 4～6m にアマモが、水深 4～17m にタチアマモが生育していた。浅い水深帯では、両種は混成するのではなく、それぞれのパッチがモザイク状に分布していた。深い水深帯においては、タチアマモがパッチ状に分布するが、パッチの大きさと被度は水深と共に減少する傾向があった。オオアマモは、浪板海岸沖の水深 10～12m 付近の砂底にアマモと共存する形で分布していた。		

【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



船越湾南部

【調査風景】



船より潜水調査に向かう

【出現生物】



アマモ



タチアマモ



ホタテ

写真撮影：堀正和



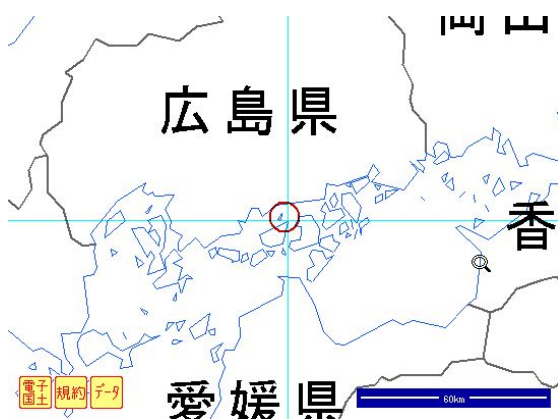
日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【アマモ場】
調査結果

サイト名	安芸灘生野島 (広島県豊田郡大崎上島町)	海域区分	③瀬戸内海沿岸
緯度経度 (WGS84)	北緯 : 34.30	東経	: 132.91
調査年月日	2008年6月30日		
調査者 *サイト代表者	*堀 正和 ((独)水研セ・瀬戸内海区)、田中義幸 (横浜市立大)、 向井 宏 (京都大)、吉田吾郎・山田勝雅 ((独)水研セ・瀬戸内海区)、 小路 淳 (広島大)		

環境の概要	生野島月ノ浦は安芸灘北部の中央に位置し、北東に開口部を持つ入江である。海底は岸から沖に向かってアマモの生育に適当な水深基準-1mのなだらかな斜面が約300m続き、その後、急激に-20m付近まで落ち込む。
調査結果の概要	アマモが優占種として藻場を形成し、岸側にコアマモ、沖側にウミヒルモが確認された。コアマモは水深基準+1.2m~+0.7mの範囲、アマモは+1.2m~-6.5mの範囲、ウミヒルモは-2.0m~-3.0mの範囲で生育していた。アマモは-0.9m~-3.0mの範囲で連続な群落を形成し、それより浅部ならびに深部ではパッチ状に分布していた。

【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



st. 5 より岸側を望む

【調査風景】



調査艇を用いた素潜りによる調査

【出現生物】



岸側に密生するコアマモ



アマモ群落内に点在するウミヒルモ

写真撮影：堀 正和



アマモの間を泳ぐメバル稚魚

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

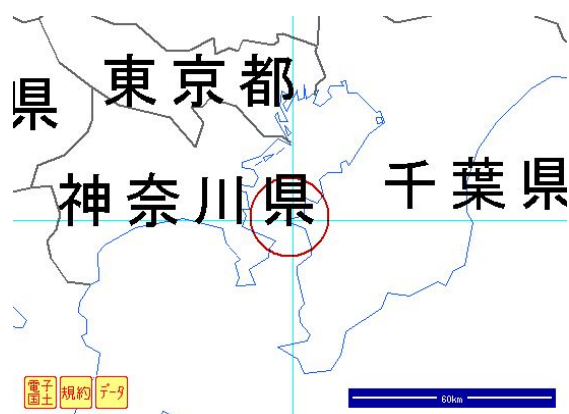
 WETLANDS
INTERNATIONAL
日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【アマモ場】
調査結果

サイト名	富津（千葉県富津市）	海域区分	④中部太平洋沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 35.32	東経	132.80
調査年月日	2008年7月16日		
調査者 *サイト代表者	*仲岡雅裕（北海道大）、熊谷直喜・渡辺健太郎・山北剛久・ナパクワン-ワンペッチ（千葉大）		

環境の概要	東京湾に残存する最大のアマモ場である。アマモ場は潮間帯から水深4mにかけて形成される。水深は岸側（南）から沖側（北）に向かって増加するが、潮間帯では砂州の地形を反映して、地形が複雑に変化する。潮下帯はなだらかに深くなる。底質は砂あるいは泥砂である。
調査結果の概要	アマモ、コアマモ、タチアマモが出現した。潮間帯の干出しやすい部分にコアマモが、タイドプールにアマモが分布するが多かった。潮間帯下部から潮下帯の水深2mにかけてはアマモが連続的に分布するが、それ以深ではパッチ上に分布した。タチアマモは主に水深2m以深にパッチ状に分布した。

【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



アマモ場中央部



アマモ場中央部

【出現生物】



アマモ（花枝）



アカニシ



マメコブシガニ

写真撮影：山北剛久

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

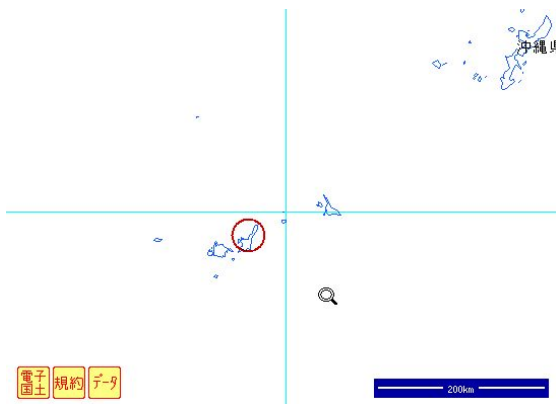
日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【アマモ場】
調査結果

サイト名	石垣伊土名（沖縄県石垣市）	海域区分	⑥琉球列島沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 24.49	東経	124.23
調査年月日	2008年9月18日、19日		
調査者 *サイト代表者	*田中義幸（横浜市立大）、堀 正和（（独）水研セ・瀬戸内海区）、 向井 宏（京都大）、澁野拓郎（（独）水研セ・西海区石垣支所）		

環境の概要	石垣島北部、吹通川河口域に位置する。基点から沖合 500m程度まで、なだらかに水深が増す（水深差 2m）。底質は砂。
調査結果の概要	9 種の海草が観察された。基点から沖にむけて、小型種（マツバウミジグサ、コアマモ）、中型種（ベニアマモ、リュウキュウスガモ、リュウキュウアマモ）、大型種（ウミショウブ）が帯状に分布した。

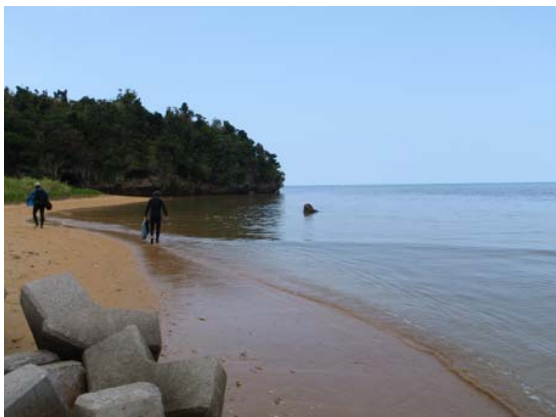
【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



基点から沖側をのぞむ



GPS を用いた測位 (St. 7 付近)

【出現生物】



ウミショウブ



コブヒトデ

写真撮影：堀正和、田中義幸



クモガイ

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【藻場】
調査結果

サイト名	志津川（宮城県本吉郡南三陸町）	海域区分	①北部太平洋沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 38.65	東経	141.49
調査年月日	2008年7月23日、24日		
調査者 *サイト代表者	*坂西芳彦（（独）水研セ・北海道区）、太齋彰浩（南三陸町自然環境活用センター）、倉島 彰（三重大）、田中次郎（東京海洋大）		

環境の概要	三陸の典型的なリアス式海岸の中にあり、志津川湾内に浮かぶ島（樺島）の外洋に面した岩礁海岸である。調査対象群落は湾内に位置するが、沖側の湾口部に面していることから海水の流動が活発で、透明度は高い。
調査結果の概要	調査海域は、岸寄りではエゾノネジモク、フシスジモクが混生するが、基本的にアラメが主体となる群落である。下草としてはアサミドリシオグサ、フクロノリ、アミジグサ、マクサ、ユカリ等が見られる。調査海域周辺ではマコンブ群落が見られる場所もあり、寒海性コンブ目と暖海性コンブ目が共存する海域の代表的な藻場の一つと言える。

【広域地図】



【詳細地図】



【調査地風景】



調査地



調査地（反対方向）

【代表的な藻場群落】



エゾノネジモク群落など



アラメ群落

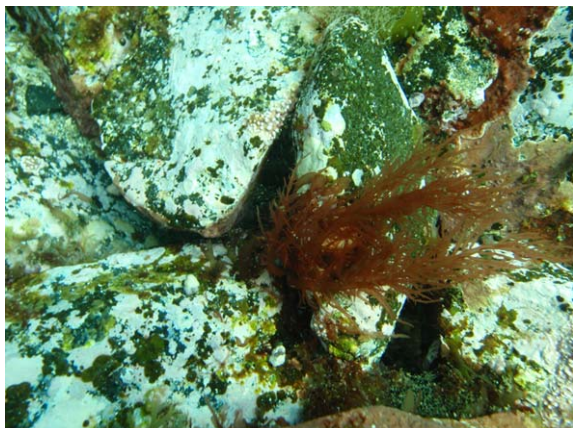
【出現生物】



アラメ



アラメ幼体



タオヤギソウ



ユカリ（中央）とハイミルモドキ（緑の藻体）



ツノマタ（中央）とアラメ幼体

写真撮影：田中次郎

 生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan

 WETLANDS
INTERNATIONAL

日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【藻場】
調査結果

サイト名	由良（兵庫県洲本市）	海域区分	③瀬戸内海沿岸
緯度経度（WGS84）	北緯 34.27	東経	134.96
調査年月日	2008年5月26日（補完調査7月3日）		
調査者 *サイト代表者	*川井浩史（神戸大）、寺田竜太（鹿児島大）、倉島 彰（三重大）、 坂西芳彦（（独）水研セ・北海道区）、田中次郎（東京海洋大）、 村瀬 昇（水産大学校）、吉田吾郎（（独）水研セ・瀬戸内海区）、 島袋寛盛（千葉大）、久保井喬（環境省）、中川雅博（日本国際湿地 保全連合）		

環境の概要	紀淡海峡（友ヶ島水道）に位置し、外海に面した岩礁海岸である。海底は離岸距離 100m で水深 2.5m 程度（低潮時）と緩やかに傾斜しており、波高の浅水変形が著しい。調査地以南の後背地は急傾斜の山林となっており、人家はない。周辺では約 150 種 of 海藻類が分布しており、大阪湾湾口部における大規模な藻場として希少性が高く、近傍にはアマモ・コアマモの自生地もある。
調査結果の概要	離岸距離 40m から 100m にかけての岩盤上にカジメとヤナギモクが優占種として混生する。下草としてはテングサ類やホソバナミノハナ、ウミウチワ、タマゴバロニア等が見られ、本州中南部太平洋岸の一般的な海藻植生を示す。

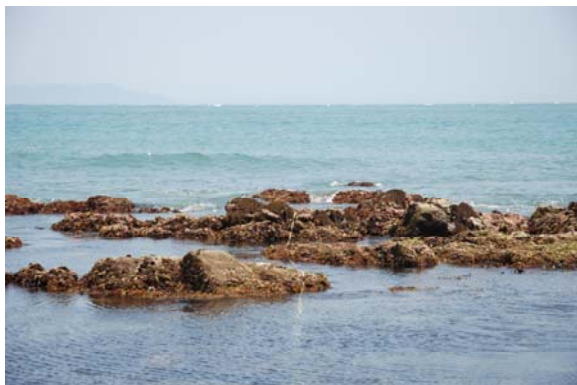
【広域地図】



【詳細地図】



【調査地周辺風景】



低潮時に和歌山県方向をのぞむ

【永久方形枠設置状況】



調査枠 F3 (2m x 2m) の基点ボルト

【調査の様子】



海藻の種や被度を記録

【海藻被度調査風景】



調査用 0.5m x 0.5m 方形枠

【代表的な藻場構成種】



ヤナギモク



カジメ

写真撮影：寺田竜太・川井浩史



日本国際湿地保全連合

モニタリングサイト 1000 沿岸域調査 【藻場】
調査結果

サイト名	長島（鹿児島県出水郡長島町）	海域区分	⑤西部太平洋沿岸等
緯度経度（WGS84）	北緯 32.14	東経	130.11
調査年月日	2008年5月22日（予備調査） 2009年3月16日－18日（サイト設置調査）		
サイト代表者	寺田竜太（鹿児島大学）		
環境の概要	調査地は東シナ海に面した岩礁海岸である。海底は緩やかに傾斜しており、離岸距離40mで水深4m前後、150mで水深10m前後である。離岸距離と水深で底質が異なり、岸寄りの底質は岩盤だが、離岸距離50m以遠は岩塊、巨礫となる。調査地の後背地は丘陵地となっており、人家と耕作地が点在する。耕作地の後背地は森林である。調査地に直接流入する河川はない。冬季は北西からの季節風の影響を受け、波浪が高い。調査方法は、本事業で定めた調査法に準じた。アントクメが水深4-12m前後に生育することから、永久枠設置水深帯を水深4mと10mの2群に分けて計6枠を設置した。		
調査結果の概要	アントクメ、トサカノリ、シマオオギ、カギケノリ、ユカリ、フシツナギ、マクサ、オバクサ、ウミウチワ等の藻類の他、底生動物ではムラサキウニ等が見られた。水深4mから15mにかけての岩上にアントクメが生育するが、水深10m前後の密度が高い。調査地のアントクメは一年生であり、2月から6月にかけて成長して、7・8月に成熟後、9月頃までに枯死流失する。		

【広域地図】



スケールバーは 40 km を示す

【詳細地図】



スケールバーは 1 km を示す

【調査地風景写真】

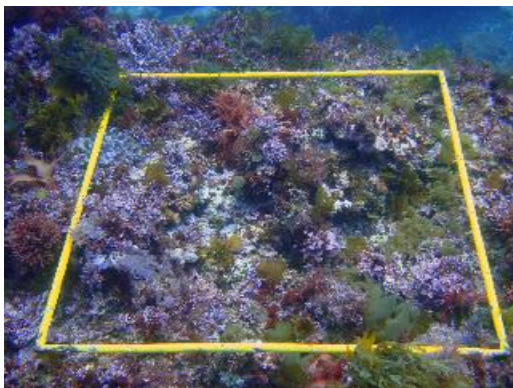


海側より陸側をのぞむ

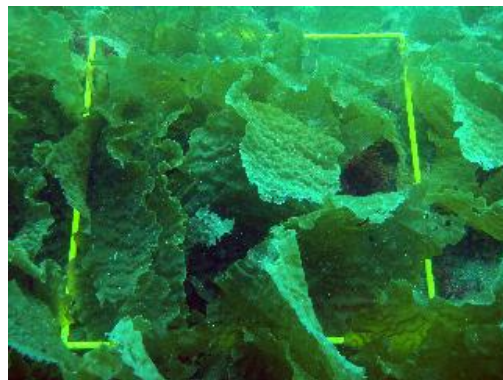


調査側線の起点

【出現生物写真】



海藻種の多様性が高い方形区



アントクメの優占する方形区



トサカノリ



タマイタダキ

写真撮影：寺田竜太



生物多様性センター
Biodiversity Center of Japan



日本国際湿地保全連合